

2017年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本アレルギー学会

正式名称

総合アレルギー診療の全国均てん化を目的とした拡大総合アレルギー講習会の実施プロジェクト

医学教育事業の概要

TV遠隔会議システムによる講義とハンズオン実習

講義内容は喘息アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギー等、実習内容は呼吸機能検査、吸入指導、スキンケア、免疫療法、結膜診察術、食物負荷試験等

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、薬剤師、看護師、その他（アレルギーエドゥケーター）

対象となる医療関係者の想定人数：800人

医学教育事業の必要性

日本アレルギー学会は、アレルギー総合医（Total Allergist）育成のため総合アレルギー講習会を毎年開催している。質の高いアレルギー総合医育成を目標に、基礎医学と各臨床基盤科の講義、そしてハンズオン実習から構成される。一方で、アレルギー診療の実態に目を向けると、アレルギー専門医の地域偏在と、アレルギー診療の地域格差という大きな問題がある。すなわちアレルギー診療の均てん化が急務といえる。実現のためには、アレルギー総合医の育成のみならず、非専門医師、休職中女性医師、アレルギー疾患療養指導士らへの幅広い教育が必要といえる。本事業計画が実現すれば大都市以外の国民に対する利益（アレルギー診療レベルの向上）が期待される。

医学教育事業の目的

アレルギー診療レベルの全国均てん化と向上を図ること。

医学教育事業の計画・方法等

東京の大会場をメイン会場とし、その他、全国8程度の会場を設置する。各会場には、できるだけ多くの医師（非専門中心）、看護師、薬剤師、栄養士に参加して頂く。全国で800人の参加者を見込んでいる。9:00から17:00まで、講義とハンズオン実習を行う。講義の内容は、喘息（小児、成人、高齢者）、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギーなど、実習の内容は呼吸機能検査、吸入指導、スキンケア、免疫療法、結膜診察術、食物負荷試験などである。参加者には、アレルギー専門医、アレルギーエドゥケーター資格申請・更新用のポイントを付与する（現在準備中）。メイン会場と各会場はTV遠隔会議システムで結ばれ、双方向の質疑応答が可能である。講習会全体について録画・録音・編集を行い、後日、学会ホームページ上で閲覧ができるようにする。2018年9月の開催、12月からのweb公開を目指し、アレルギー学会内に拡大総合アレルギー講習会プロジェクトチームを立ち上げ、プログラムの策定、講師・現地スタッフ選出、資料作製、運営・管理を行う。なお地方会場の設置に当たってはアレルギー協会の地方組織と密接に連携して進める。また、開催地域の日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本栄養士会への積極的周知を図ってゆく。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

日本アレルギー学会、および日本アレルギー協会ホームページを通して情報発信する。